

自由民主党宮崎県第一選挙区支部

中山成彬

国政報告特集号

自由民主

LIBERAL & DEMOCRATIC



発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
振替口座 東京00180-1-19518
(毎週火曜日発行)

自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.jp/>

なぜ民主党ではいけないか？

働かない社保庁職員組合、日本の教育をゆがめる日教組に基盤を置く民主党政権は日本の将来を危うくします。小沢代表の持論である国連中心主義も危険です。

社保庁の杜撰(ずさん)な仕事振りが連日のように報道されています。社保庁の労働組合は自治労という民主党支持の強力な組合で、事務の機械化は労働強化になると長年反対してきました。そして、機械化を受け入れる見返りとして、スカスカの労働条件と甘い待遇を獲得しました。働かなくてもお給料をもらえる社保庁の職員が年金記録の突合もせず、ほったらかしていたのが年金記録問題の本質です。(奨学金の未返還問題も組合の強い旧日本育英会の職務怠慢の結果です。)

今問題になっている大分県の教育界は、ほとんど報道されていませんが、日教組支配が強く、子供達の学力も全国的に下位に止まっています。日教組は国旗、国歌に反対、道徳教育に反対し、過激な性教育を行っている教職員組合です。昨年の参議院選挙での民主党の比例代表当選者二十名の内、自治労と日教組のいわゆる官公労出身の議員が多数を占め、特にトップは社保庁の専従組合員で五十万票を超える得票でした。民主党は社保庁の民営化をやめ、国税庁と合体させることを主張していますが、とてもない話です。国税庁まで社保庁のように堕落させてはなりません。公務員をできるだけ減らし、民間でできることはできるだけ民間に任せればなりません。今、大阪の橋下知事が府政改革に奮闘しています。長年の府と職員組合との馴れ合いで、異常に高い給料や手当等に、府財政はまさに破綻に瀕しています。官公労の組合と結託する民主党政権になれば、日本全体が大府府みたいになるでしょう。橋下知事の改革を注目に応援していきたいと思えます。

小沢代表の国連中心主義も賛成できません。なかなか常任理事国になれない日本です。拒否権を持つ中国やロシアに振り回されている国連に日本の命運を委ねる訳にはいかないのです。

野党は国民生活を混乱に陥れ、それを政府与党のせいだとして解散総選挙に持ち込もうという政局優先の国会運営に終始しています。そもそも、国民生活の安定と豊かな国造りを目指すのが政権獲得の目的のはずなのに、逆に国民生活を混乱させて政権を取ろうというのは本末転倒の仕業としか思えません。そうして誕生した政権が本当に国民の幸せを第一に考えてくれるとは到底思えません。また、民主党の主張する諸政策は国民受けを狙ったいわゆるバラマキであり、そのために必要な十八兆円もの財源は真剣に考えられていません。無駄遣いを止めれば財源は出ると主張していますが、無駄遣いは徹底して排除していかなければなりません。それが財源になるほど多額なものでないことは自明のことです。このことは民主党の前原元代表が自民党の与謝野代議士との会談で、民主党のマニフェストは小沢代表が「エイヤ」といい加減に決めた極めて無責任なものであると述べている通りです。

暑い日が続きますが、皆様にはお元気で過ごしているのとおもいます。日頃からの温かいご支援に心から感謝申し上げます。さて、通常国会は六月二十一日に閉会しましたが、参議院は野党多数で、委員長が民主党のため、委員会を開かなかつたり、逆に審議もせずに強引に多数決を乱発するなど常軌を逸した国会でした。野党の反対でインド洋での給油活動を中断して一旦海上自衛隊を帰国させざるを得ず、世界から嘲笑されたり、ガソリン値下げ隊のよ



予算委員会筆頭理事
元文部科学大臣

中山成彬

国民生活の安定と豊かな国造りを 目指すのが政治です

政局優先の民主党の国会運営は日本と日本国民のことを真剣に考えているとは思われません。うな子供じみたパフォーマンスをテレビの前で繰り広げたり、まさに国会は非良識の府と化しています。

野党は国民生活を混乱に陥れ、それを政府与党のせいだとして解散総選挙に持ち込もうという政局優先の国会運営に終始しています。そもそも、国民生活の安定と豊かな国造りを目指すのが政権獲得の目的のはずなのに、逆に国民生活を混乱させて政権を取ろうというのは本末転倒の仕業としか思えません。そうして誕生した政権が本当に国民の幸せを第一に考えてくれるとは到底思えません。また、民主党の主張する諸政策は国民受けを狙ったいわゆるバラマキであり、そのために必要な十八兆円もの財源は真剣に考えられていません。無駄遣いを止めれば財源は出ると主張していますが、無駄遣いは徹底して排除していかなければなりません。それが財源になるほど多額なものでないことは自明のことです。このことは民主党の前原元代表が自民党の与謝野代議士との会談で、民主党のマニフェストは小沢代表が「エイヤ」といい加減に決めた極めて無責任なものであると述べている通りです。

借金に頼るといふまさに火の車ですが、高齢化によりこれ以上の予算の削減は限界に近づいています。公務員制度改革が進められていますが、守屋前事務次官の逮捕や社保庁の呆れるほどの怠慢、最近の居酒屋タクシー報道のように公務員に対する国民の不信は最高潮に達しています。公務員の天下りや予算の無駄使いも、国民の強い批判を受けています。一方、民間でも相次ぐ食品偽装、子供の給食費も払わない親や救急車で運ばれても治療代を踏み倒すなどの考えられない事態も起こっています。親が悪い、会社が悪い、社会が悪いと言って無差別殺人に走る事件も多発し、まさに日本人のモラルの崩壊は目を覆うばかりで、安心安全な日本社会が崩壊の危機に瀕していると言っても過言ではありません。

日本の危機的状況を いかに突破するか

世界に類を見ない少子高齢化・地方の疲弊・隣国との摩擦等、今日日本を取り巻く環境は急激に変化し、大変厳しいものがあります

日本は今さまざまな課題に直面し、まさに国難の中にあるといつても過言ではないと思えます。世界に類を見ない急速な少子高齢化が進む中で、経済的には東京の一極集中と地方の疲弊が目立っています。バブル崩壊後の経済低迷の中で、かつては世界のトップであった日本の一人当たりのGDP(国民総生産)も今や十八位まで下がるなど、立ち止まっているとたちまち追い抜かれてしまうような世界の躍進振りでです。最近の原油高、輸入飼料や食糧価格の高騰は資源小国日本の経済を直撃しています。景気の回復が遅れ、需要が低迷しているため一部を除いてコストの上昇を価格に転嫁できず、今、日本経済はいわば窒息状態にあると言えます。国家財政は多額の負債を抱え、更に毎年四割を